

名古屋市長 松原武久様

名古屋市民おんたけ休暇村の存続を求める賛同署名運動

名古屋市民おんたけ休暇村は、昭和48年の開設以来、市民の保養施設として、また野外活動の拠点として、大きな役割を果たしてきました。アスファルトやコンクリートに囲まれた都会とは違い、雄大な御岳山のふところに抱かれた山岳レクリエーションの基地である休暇村は、多くの市民に癒しと安らぎを与え、心身をリフレッシュさせるとともに、貴重な体験と心に残る思い出を作ってきました。特に、中高年のスキーや登山の企画、夏の青少年のキャンプは人気が高く毎年好評を博しています。

夏のキャンプ活動の一環である「おんたけ子ども村」においては、約20年もの長い歴史と実績を持っています。キャンパーとして訪れた子どもたちが大人となり、自分たちの子どもにも「おんたけ子ども村」を体験させようと応募するほど、信頼を得ています。

異年齢の子どもたちとの交流、自然の中での集団宿泊活動、職場体験活動、奉仕活動などの体験活動は、他者、社会、自然、地域との直接的なかかわりという点で極めて重要です。

子供たちの教育は、学校教育だけではありません。名古屋市の子どもたちの豊かな心や、健やかな体を育むためには、名古屋市民おんたけ休暇村が是非とも必要です。

経済が好況であった時期は特別に問題として取り沙汰されなかったことですが、社会経済の動向が不安定になってきた近年、市外郭団体の運営について注目が集まり、名古屋市民おんたけ休暇村の廃止、または民営化という問題が浮かび上がってきました。

過去35年に及ぶ休暇村の果たしてきた役割を考えると、今後も多くの市民、特に生活体験の乏しさが問題視されている子どもたちの育成に大きな成果が期待できることを、私たちは強く感じています。そして、市民の自然体験の場、貴重な財産として名古屋市民おんたけ休暇村の存続を望んでいます。

私たちの活動は、この趣旨に賛同いただけるみなさんにご署名をいただき、市当局へ提出し存続を訴えていくものです。

名前	住所
1	
2	
3	
4	
5	

要請団体 名古屋市民おんたけ休暇村の存続を求める「おんたけを考える会」代表 仲 幸則
名古屋市民休暇村キャンプカウンセラー会 OBOG 会「井桁の会」 会長 鈴木康夫